

令和6年度学校評価計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
1	基本的な生活習慣を確立させるとともに一人一人の生徒がタブレット端末を活用する個別学習や協働学習を通して、思考力・判断力・表現力を身につける授業を実践することで、生徒の学習意欲を喚起し、進路実現につなげていく。	①	遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への指導を通して意識改革を図り、基本的な生活習慣を確立する。	遅刻者が1日に A 2人未満 B 3人未満 C 4人未満 D 4人以上 昨年度 1.5人	2. 3人	昨年度に比べ遅刻者数が増加した。連休や長期休暇後に増加する傾向があり、その期間に遅刻防止期間を設定し、生活改善を中心に指導を行うことで年度当初よりは減少したものの、遅刻者の多くが中学時代に不登校傾向の生徒であり、なかなか減らせなかった。ただ、遅刻をしてでも学校に登校していることは評価できる。今後も引き続き指導する中で、基本的な生活習慣が社会に出てから重要であることを確認していく必要がある。また、保護者にも健康管理と遅刻防止の協力をお願いしていく。
		②	決められたルール（校則等）をしっかりと守る。	私は（生徒は）校則等のルールをしっかりと守っている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 昨年度 A+B 88.0%	92. 4%	校則の見直しを毎年実施している。生徒にルールを理解してもらうために学年団とも協力して様々な場面での校則遵守に取り組み、大半の生徒は理解し守ることができていた。しかし、一部において継続して指導を受ける生徒がいる。いしかわ特支との本格的な交流が始まることで更なる校則の見直しを行い、生徒だけではなく保護者にも理解を得ながら、落ち着いた学校生活が送れるようにしていく必要がある。また、教員間でも共通理解を持ち、更なる指導力の向上に繋げたい。
		③	個人面談を充実させ、生徒の様子を観察し、いじめ等の問題に相談室、学年、生徒課を中心に全職員で連携しながら迅速に対応する。	各課、学年が連携をとりいじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策に取り組み、悩みを抱えた生徒が、相談しやすい体制がとれている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 昨年度 C+D 0.0%	7. 1%	相談室が教室棟から離れた位置に移動したことが、昨年度よりC+D7.1ポイント増となった原因の一つとして考えられる。年2回のいじめアンケート、保護者アンケートを実施し、いじめの早期把握に努めているが、次年度以降はアンケートの実施時期や回数の見直しが必要である。相談室の場所に関わらず、悩みを抱えた生徒が相談しやすい体制と迅速に対応できる仕組みを早急に整えなければならない。
		④	一人一台タブレット端末を効果的に活用する等、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	授業を理解できるとする生徒が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満 昨年度 77.0%	82. 7%	昨年度に比べて理解度にやや改善が見られる結果となった。一人一台端末を活用する授業が増え、授業改善が進んだためと考えられる。一方で評価Aの85%以上には届いておらず、課題も残っている。今後は生成AI等を含めて更に効果的に端末

					を使う方法を模索することで、主体的・対話的で深い学びを実現していきたい。
	⑤ 生徒	総合的な探究の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通して、キャリア教育を推進する。	キャリア教育に関係する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 昨年度 82.6%	88.3%	3年間を見通したキャリア教育を実践し、一定の効果が見られる。今後も生徒のニーズにあった情報を提供し将来の自分を想像できるよう粘り強く取り組んでいきたい。 探究活動については、前年度の生徒の発表を参観していることにより、発表内容のレベルが年々向上している。この活動を通じて培った力を今後も生かしたいという生徒の声も多い。
	⑥ 生徒	3年生の進路実現に向けて、個々に応じた指導を実践し、進路実現を図る。	第1志望校への進学、就職内定が実現した生徒が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 昨年度（進学） 96% （就職） 100%	（進学） 100% （就職） 100%	今年度からオンライン学習を導入し朝学習や授業において活用している。生徒の基礎力向上だけでなく、得意分野の学習に取り組みたい生徒にとっても有効であった。更なる活用方法について検討していきたい。 進路実現に向けては、1年次から段階的に進路に向けた学習を進めていく必要がある。各々の生徒に必要な情報提供や進路実現に向けたガイダンスの活用を考えていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数1日の平均について増加しているが、中学時代に不登校傾向の生徒や通院している生徒の増加が関係しているとの事だが、遅刻しても登校する要因はなにか。 良い進路先は大事なことだが、向陽高校では学校生活において人間形成の成果があると思われ、勉学も当然大事なことだが社会で一番大切な人間形成を継続して育成してほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> 登校した際に注意よりも温かく、頑張ってきたことへの声掛けをしている先生方の対応が一定の成果を発揮していると考えられ、今後も継続する。また、受診による連絡済みの遅刻等もカウントしているため、今後集計上の取り扱いについて検討する。 人間形成の1つとして自己肯定感を高める指導を継続して行い、単なる結果だけではなく本人の思いを大切にしていきたい。 			

重点目標		具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
2	特別支援学校の生徒との交流やボランティア活動などを通して、年齢や性別、国籍や障害の有無などに関係なく全ての人と助け合い支え合う共生社会を創り上げ	① 生徒 特別支援学校の生徒との交流を通して、共生社会の実現に向け思いやりの心を育む。	特別支援学校生徒との交流を通して生徒は A 積極的にかかわり満足している B おおむね満足している C 満足度が低い D 満足度がとても低い 昨年度 A+B 81.6%	88.3%	今年度、共同学習を行った生徒は全体の約8割にあたり授業の選択によって一度も交流をする機会がなかった生徒が約2割いることが分かった。共同学習の満足度について、A+Bは昨年より6.7ポイント上昇した。一方で、満足度が低いまたはとても低いと回答した生徒は、関わり方が難しかったと述べている。10月に実施した交流ウィークでは、ほとんどの生徒は積極的なかわりができたと回答している。次年度は、障害理解のための特別講座のさらなる充実や、各合同授業で互いの理解促進につながるような授業を心がける必要がある。

ていく人材の育成に努める。	② 生徒	地域の方に喜んでもらえる行事やボランティア活動の機会を増やし、地域との交流に積極的に取り組んでいく。	地域の方に喜んでもらえる行事やボランティア活動などに A 複数回参加し、積極的に取り組んだ B 回数は少ないが、一生懸命に取り組んだ C 参加する機会がなかった D 参加したいと思わなかった 昨年度 A+B 52.3%	39.3%	全校でボランティア活動に取り組んだが、意識が低かった理由として、個々の生徒が活動の目的と自分の役割を感じにくかったことが挙げられる。また、大規模な活動では自分がどれだけ貢献できているのかが実感しにくく、結果として参加への意識が希薄になった可能性がある。今後は、生徒が自分の貢献を実感できるような工夫を凝らしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある生徒との授業や交流は、どのようなことを行い工夫しているのか。 ・地域清掃ボランティア活動で積極性に欠ける低い結果だが、理由として何が考えられるのか 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ・体育・芸術・家庭の実技科目のほか、一部の部活動で合同活動を行っている。向陽高校では、生徒・教員に対し障害者理解の研修を実施し、学年単独の活動など交流の機会も多く設けており、深化した交流を目指して更にインクルーシブ教育を進めていく。 ・生徒自身、学校行事の一つという意識でしかなく自分の役割を感じにくかったことが原因と考えられる。今後はしっかりと事前指導を行い、地域貢献が実感できるよう進めていきたい。また、好評だったPTA有志によるめった汁も多くの方の力を借りて継続する。 			

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準		集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
3	部活動のさらなる活性化を推進し、技能の向上を図るとともに、心豊かな人間性と社会性を身につけた生徒を育成する。	① 生徒	部活動により多くの生徒が加入するよう指導し、かつ継続的な活動を促すことで、学校の活性化に寄与していく。	1・2年次生の部加入率が A 85%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 昨年度 82.0%		82.0%	活動場所の確保や工事による様々な課題がある中、各部充実した内容の展開ができたと思われる。他校と合同チームによる公式試合の参加や、別の部に所属している生徒が兼部という形で他の部活動を盛り上げる場面が見られた。今後も部活動の大切さを粘り強く説明しながら入部を勧めていきたい。
		② 教員	積極的に部活動の指導に携わり、部活動の指導力向上にも努める。	部活動の指導について A 積極的に支援し指導している B 概ね支援し指導している C あまり支援せず指導していない D 殆ど支援せず指導していない 昨年度 A+B 78.6%		78.6%	今年度いしかわ特別支援学校との合同部活動の機会が増え、授業とはまた違った関わり方からインクルーシブについて考えるきっかけとなった。さらに新しい形での部活動活性化のために生徒とのコミュニケーションを大切にして少人数ならではの丁寧な指導をこれからも続けていきたい。
学校関係者評価委員会の評価			・大規模校に比べると、部員数は決して多いとは言えないが、活動は大丈夫なのか。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針			・他校と合同チームによる公式試合の参加や、別の部に所属している生徒が兼部という形で他の部活動を盛り上げる場面が見られた。今後も特別活動の大切さを粘り強く説明する必要がある入部を勧めていきたい。				

重点目標		具体的取組		実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
4	生徒・保護者・地域の理解を得ながら、学校行事や業務の進め方の見直しを図り、組織的・協力的な対応に努めることで、教職員の多忙化改善に取り組む。	① 教員	教職員の勤務時間調査から、働き方改革を把握し、働き方改革に対する意識の向上を目指す。	<p>全体での業務改善を意識し、効率化につながる提言を行い協力して仕事に取り組むことで、時間外勤務の縮減に努力している。</p> <p>A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない</p> <p style="text-align: right;">昨年度 A+B 71.5%</p>	85.7%	A+Bの数値が大幅に上昇した。各教員は意識的に働き方改革に取り組んでいる。ただ仕事量は個人差があり数字だけでは測れず、今後も粘り強く業務の改善を意識し効率的に仕事ができる環境作りに努めたい。各自がワークライフバランスを考慮し、今後は、定期的に退校を促し帰りやすい雰囲気をつくっていきたい。
学校関係者評価委員会の評価			・多忙化改善のために、地域やPTAとの連携を図り、協力できることなどの日程調整はできるか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針			・地域やPTAとの交流活動ができるよう早めに日程をお知らせし、連携をとりながら各種行事を実施していきたい。			